




















週間市場レポート (2021年5月31日~6月4日)

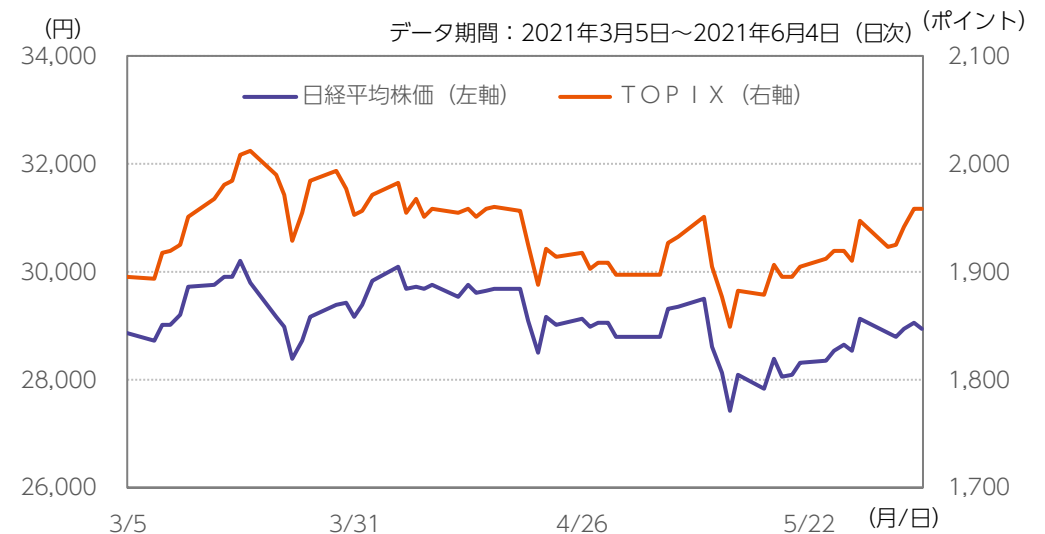
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2021/5/28	先週末 2021/6/4	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		29,149.41	28,941.52	▲ 0.71 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,947.44	1,959.19	0.60 ↑
ダウ工業株30種平均 (ドル)		34,529.45	34,756.39	0.66 ↑
S & P500種指数		4,204.11	4,229.89	0.61 ↑
ナスダック総合指数		13,748.74	13,814.49	0.48 ↑
ユーロ・ストックス50指数		4,070.56	4,089.38	0.46 ↑
S & P/ASX300指数		7,173.58	7,287.92	1.59 ↑
上海総合指数		3,600.78	3,591.85	▲ 0.25 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		1,064.13	1,072.96	0.83 ↑
東証REIT指数		2,072.89	2,104.77	1.54 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		834.58	857.82	2.78 ↑
ASX300 REIT 指数		1,490.20	1,529.90	2.66 ↑
グローバルREIT (除く日本)*		197.36	202.14	2.42 ↑
日本10年国債 (%)		0.083	0.087	0.004 ↑
米国10年国債 (%)		1.594	1.553	▲ 0.041 ↓
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.183	▲ 0.213	▲ 0.030 ↓
英国10年国債 (%)		0.795	0.790	▲ 0.005 ↓
ドル/円		109.85	109.52	▲ 0.30 ↓
ユーロ/円		133.93	133.21	▲ 0.54 ↓
英ポンド/円		155.83	155.04	▲ 0.51 ↓
豪ドル/円		84.72	84.77	0.07 ↑
フィラデルフィア半導体指数		3,186.56	3,214.14	0.87 ↑
WTI原油先物 (ドル)		66.32	69.62	4.98 ↑
CRB指数		205.70	210.29	2.23 ↑

2) 日本の株式・債券市場

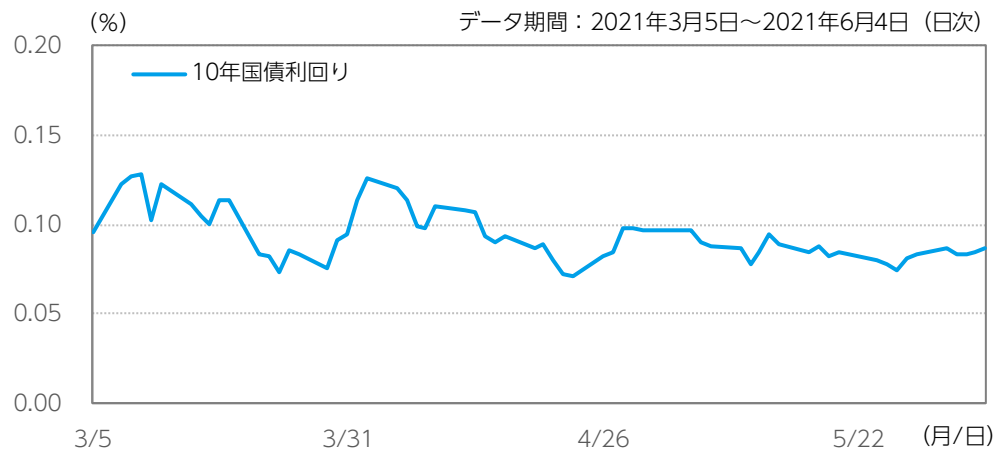
《 株式 》

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で小幅に下落となりました。週末（4日）に5月の米雇用統計の結果を控え、様子見ムードが高まる中、前週末に600円以上大きく上昇した反動から、週前半は、日経平均への寄与度が大きい値がさ株を中心に売りが優勢となりました。その後、国内で新型コロナワクチン接種が進むとの期待からやや値を戻す場面もあったものの、週末は米長期金利の上昇により米国株式市場でハイテク株などを中心に下落した流れを受け、国内株式も下落しました。



≪ 債券 ≫

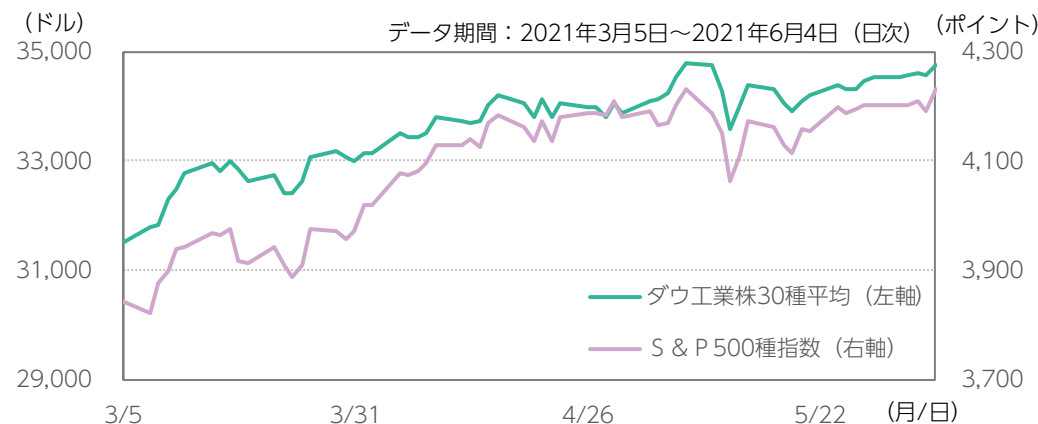
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。米連邦準備制度理事会（F R B）高官によるインフレは一時的であると発言を受け、F R Bが量的金融緩和の縮小を急がないという見方が改めて認識され、米長期金利の上昇が一服しつつあることなどから、国内金利も週を通じて小動きとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

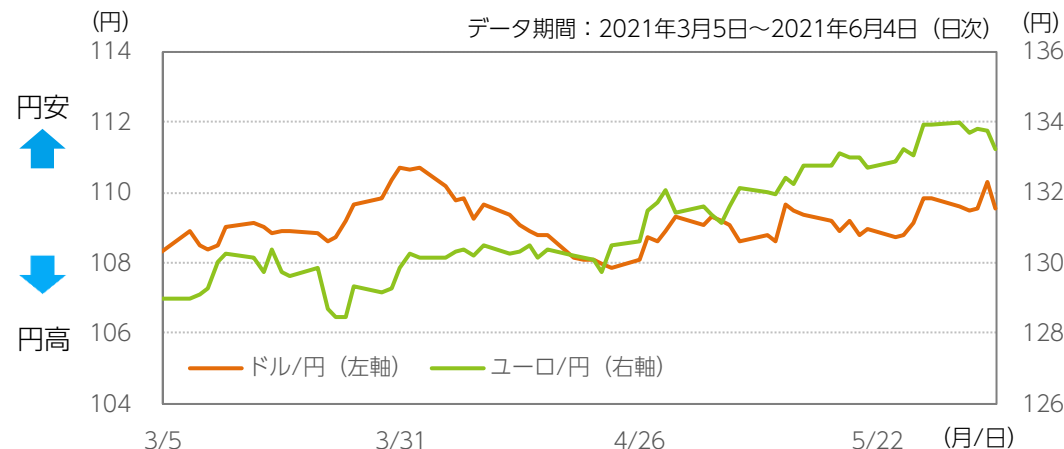
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で小幅に上昇となりました。週末に雇用統計の発表を控え様子見ムードが強く、上値の重い展開となりました。4日（金）に公表された5月の雇用統計は、前月から大幅に改善したものの市場予想を下回ったことから金融緩和の早期縮小懸念が後退し、週末のNYダウの終値は史上最高値（34,777.76米ドル）に迫りました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で横ばいとなりました。週前半は、国内輸出企業などの実需勢による円買い米ドル売りが活発となり、円高米ドル安が進行しました。その後、米長期金利が上昇する局面では日米金利差を意識した円売り米ドル買いが優勢となったものの、米長期金利上昇がやや一服すると、週末にかけて、円買い米ドル売りが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の国内株式市場は、米経済指標を見極めようと様子見ムードが高まり、週末まで小動きとなりました。米国株式市場は、週末の雇用統計の結果を受け、金融緩和の早期縮小懸念が後退し、史上最高値に迫りました。

5月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比55万9,000人増と、市場予想には届かなかったものの前月から倍増し、米景気が順調に回復していることが確認されました。一方、急速な景気回復に働き手が追いつかず、サービス業を中心に労働力不足が深刻になりつつあるようです。国内では、今月下旬より職場や大学でのワクチンの接種が可能となるよう準備が進められており、64歳以下への接種が進むことが期待されます。

今週は、10日（木）に公表される5月の米消費者物価指数（C P I）が注目されます。I S M製造業・非製造業景況感指数など、先週相次いで公表された米経済指標は総じて好調な結果となり、コロナ禍からの米景気回復の力強さが確認された一方、景気回復にともなうインフレ懸念がくすぶります。米C P Iが市場予想を上回る大幅な伸びとなれば、長期金利の上昇圧力となり、株式市場はハイテク株を中心に大きく下落する可能性もありそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>